

# 「みんなの声を聴かせてワークショップ」を通じての声

実施期間：2020年9月19日～12月6日

協力者：九州の児童養護施設・障がい児入所施設・里親家庭で生活する  
小学1年生～高校3年生 合計 76名

## 1. インケアの子どもの声

### ① 現在、話を聴いてもらえているか

- 自分のことを相談できる人はいない
- 相談できる人はいるけど、話しにくい。
- 職員は時間がない。自分の仕事でいっぱい。空いている時間がない。「〇分で（話してね）」と言われると、言えない。
- 意見を言えない
- 誰にも話したくない：適当な言葉で逃れられて、（現状が）変わることがないから。そのままとどめておく。
- 友達に話している。
- 大人に話しても変わらない。言っても意味ない。
- 言わない：言ってもどうせ変わらないから。変わるとしても、すぐに解決するわけではない。
- 愚痴を言って一時的にすっきりはする。けど、変わらないからまたストレスを感じる。
- 無限ループ。

### ② アドボケイト（話を聴くおとな）に対する意見

怒らない人	突然切れない人。怒らない人がいい
優しい人	歳が離れているけど、優しい人。・優しく聞いてくれる人
同性がいい	同性が話しやすい。
教えてくれる	改善点を考えてくれる。色々教えてくれる人。
年齢が近い	大学生だとゲームとか、自分が知っていることを話せる。
施設・里親家庭経験者	同じような環境で育った人がいい。分かってくれそう。経験したことがないのに、同情されたくない
しっかり聴いてくれる	最後まで話を聴いてくれる人。・ゆっくり話を聞いてくれる人。
秘密を守ってくれる	人の話をすぐ言う人は嫌。秘密はまもって欲しい。
なんでも聴いてくれる	自分が話したい事を聴いて欲しい。
明るすぎず、暗すぎず、普通の人	ぐいぐいくる人は嫌。
明るい人	暗い人は嫌。
笑ってくれる人	面白い人がいい。キャラがいい人
同じ人がいい	児童相談所の人、コロコロ変わるから。担当ケースワーカーがよく変わるから。

### ③ 気持ちや考えを聴いてほしくない人とその理由

- 施設のことを知らない人
- 施設の生活で悩み・ストレスを抱えているときに、施設のことを説明しなければいけないのは更にストレスが溜まる。施設で生活していてどれほど苦しい思いをしているか、もっと深く考えてほしい。
- お金がなくて専門学校にいけない。職員に対して「あなたは行けたでしょ」と思う。そんな人に話せない。
- 悩みを相談したときに、「〇〇したら」といわれても、本当に気持ちをわかってくれているのか、という気持ちになる。
- 話が長い人
- 声がでかい人
- 何度も聞き返さないといけない人
- 怖そうな人
- 自分の意見を押し付ける人
- すぐ（話の内容を）人に言う人
- 暴力を振るう人や悪口をいう人
- 自分の意見だけで話を進める人…「自分は子どものとき〇〇だったから」（という人）
- 今の自分に合わせてほしい。
- 児相の先生：自分を（入りたくなかった）施設に送った人だから。
- 友達：同じ経験をしていないから。

### ④ 聴いてもらいたい場所

#### ○相談室

- 相談室を特別に作って欲しい。そこにいけば、話を聴いてくれる人がいる状況。
- 施設に近いところがいい。児童相談所に行ってまで、話す事ではない内容の場合、手間をかけさせたなと思う。
- 2人だけの小さい面接室がいい。話していること（内容）を完全に知られないように。
- まわりに人がいないほうがいい。話をきかれたくない。
- 児童相談所以外がいい。

#### ○身近な場所

- 家
- なれた場所
- 施設でもいい
- 一対一は嫌。みんなで話したい。
- 学校に来て欲しい

#### ○その他の場所

- 車の中：秘密が守られそう。
- 公園：楽しいから
- 施設の外がいい：相談していること（自体）を職員に知られたくない。何話したの？とか訊かれるから。
- プライベートな空間以外

- おかしがあるといい
- 体育倉庫で遊びながら
- ボードゲーム（人生ゲームや桃太郎電鉄）しながら
- 机といすしかない場所は嫌だ
- 人気の音楽が流れているといい
- 静かのにぎやかな中間がいい
- ずっと座っていると疲れるので、クッションのある椅子やバランスボールに座りながら

## ⑤ その他の意見

- 職員が話を握りつぶす、うやむやにする
- お泊りをしたい
- 職員に話してもそこで終わる。「今考えている」と言われる。上に言わない。
- 職員は、監視している
- 条件をつけてくる
- 言っても実行するまでに時間がかかる。携帯電話もそうだった
- 意見箱の方法を変えて欲しい。（意見を入れると施設長と面談しないといけない）
- 第三者委員のことは知らない。
- 書類の保護者の欄に、施設長の名前を書かれるのが嫌。苗字が違う。施設の子だけが施設長の名前なので、書類が出しづらい。自分の保護者の名前を書きたい。
- 知られたくない事がある事を大人にわかって欲しい
- 子どもの意見が通らないのはおかしい。
- 何で施設で暮らしているのか聞きたい。

## 2. 今後の課題と検討が必要な視点

個別のアドボカシーを通じて聴くことができた子どもの声や状況から、権利に根差して支援の質を変容・向上させる取組の検討が必要。

「大人に話しても変わらない。言っても意味ない。」

「言ってもどうせ変わらないから。変わるとしても、すぐに解決するわけではない。」

### ○個別救済（訪問アドボカシー等）の限界

個別救済の方法を考えるだけでなく、システムアドボカシーも両輪で考える必要がある。

### ○システムアドボカシー

都道府県政令市レベルのシステムアドボカシー（子どもの生活の質の改善）

国レベルでのシステムアドボカシー（子どもコミッショナー等）

→当事者参画についても検討が必要